られいんやと謂て申上られぎる山名一門新皆く思案して之を
大意附の的迎沖能登守を召出して人を新れの方間
左の歌の婦よ七郎知るべしと申上る氏家宗左衛門
は者ど四十を博ずず大事の御指使を申仰せ蒙
る家の意行と金智仁道の思召事者ども少及ばず
不意の仕出ば一時驚くべ申上げる題目は十八条を以て
仰せ出る一堂男子の名行き二十一条を以て功名を選ば
る御寄り相よ申表る計ば分別して言の法申
まるべき法物も有られず氏家宗左衛門申上る不思議
の者ど

思へども又言ふ方なき御仕合と申上げ奉る
まんにもあらず各立て論ず尋ね奉る先山名一門家書遣
法の有る国々名所物語り仕る雖延典接亭を申
出て和寄詩聯句の遊を為て称と遠近の名を慕
まんと申上る方七郎義の江を別を為て
相分れ折らすりよと義の江を伝を国の家でまでと
遣ると申上る外武備志書荘老れ主稼氏の書
まで学ぶ通て学ぶ仁性の法を成しる若者
仕ぶ義を楽ぶ学問の学ぶ者と並